

IPBESシンポジウム

持続可能な将来に向けて、 自然の価値とわたしたちの価値観を問い直す

生物多様性条約第15回締約国会議第二部（COP15第二部）（2022年12月7日～19日 於カナダ・モントリオール）では、2030年までの生物多様性の世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム（IPBES）が2022年7月に発表した「自然及びその便益に関する多様な価値の概念化に関する方法論的評価報告書（以下、「価値評価報告書」と言う）は、人々の自然に関する価値観は多様であるにもかかわらず、多くの政策立案では狭い価値（例えば、市場取引で評価される自然の価値）を優先し、自然と社会、また将来世代を犠牲にするとともに、先住民及び地域社会の世界観に関連する価値をしばしば無視してきたと評価しています。さらに、昨今の生物多様性の減少傾向を反転するためには、背景にある人間社会のあり方、特にその根本にある、経済価値ばかりに重きを置いてしまいがちなわたしたちの価値観を問い直す必要があると指摘しています。

そのため、本シンポジウムでは、IPBES価値評価報告書の内容を紹介し、アイヌの世界観、在来種野菜の種の承継に関する知恵、都市と地方の交流に関する取組を紹介します。また、包括的な豊かさを追求する新しい価値観に基づく社会への転換の必要性について議論します。

開会挨拶・趣旨説明

竹原 真理 環境省自然環境局生物多様性戦略推進室

基調講演「IPBES価値評価報告書のポイント解説」

橋本 禪 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授

取組紹介①「コモンズ、価値の転換の必要性」

斎藤 幸平 東京大学大学院 総合文化研究科 准教授

取組紹介②「アイヌの世界観と生物多様性保全」

秋辺 デボ 阿寒湖温泉地区景観協議会 会長

取組紹介③「種を守り継ぐこと」

奥津 爾・典子 オーガニックベース 主宰

取組紹介④「お手伝い×旅で、地方と都市を結ぶ」

永岡 里菜 株式会社おてつたび 代表取締役CEO

パネルディスカッション

ファシリテーター

武内 和彦 公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）理事長

パネリスト（五十音順）

秋辺 デボ 阿寒湖温泉地区景観協議会 会長

奥津 爾・典子 オーガニックベース 主宰

斎藤 幸平 東京大学大学院 総合文化研究科 准教授

永岡 里菜 株式会社おてつたび 代表取締役CEO

橋本 禪 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授

2023年

2月19日(日)

13:30～15:30

オンライン（Zoomウェビナー形式）

参加申込

参加料無料、事前申込制となっております。

2023年2月17日（金）までに、以下の

参加フォームからお申し込みください。

<https://crm.iges.or.jp/public/application/add/1154>



登壇者プロフィール



秋辺 デボ

阿寒湖温泉地区景観協議会 会長

阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事、「アイヌモシリ」出演、ユーカラ劇脚本・演出など多方面で活躍。アイヌの自然観について雑誌記事などの執筆多数。阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会阿寒地域部会構成員。「COP10・グローバルESD対話集会」や観光庁主催の「持続可能な観光による地方創生国際シンポジウム」などにパネリストとして参加。



奥津 爾・典子

オーガニックベース 主宰

2003年より「オーガニックベース」を主宰。夫婦で2013年より雲仙に家族で移り住み、雲仙に根付いた在来種野菜の種を守り継ぐ活動を始める。2019年秋に、雲仙市千々石町にて地域の在来種野菜をベースとするオーガニック直売所タネットを開店。2021年からは種と農、環境問題、そして風土をテーマにした「種を蒔くデザイン展」それぞれの土地の在来種や伝統料理を味わう9日間の祝祭「種を旅と」を主催するなど、さまざまなイベントを通じて土と台所を繋ぐ活動を続けている。



斎藤 幸平

東京大学大学院 総合文化研究科 准教授

1987年生まれ。専門は経済思想、社会思想。『大洪水の前に』によって権威あるドイッチャー記念賞を日本人初、歴代最年少で受賞。45万部を超えるベストセラー『人新世の「資本論」』で新書大賞 2021を受賞。最新作は『ぼくはウーバーで捻挫し、山でシカと闘い、水俣で泣いた』。



武内 和彦

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長

東京大学理学部卒業。同大学院農学系研究科修士課程修了。農学博士。専門は、地域生態学、サステナビリティ学。同大学院農学生命科学研究科教授、同大サステナビリティ学連携研究機構長・教授／特任教授、国際連合大学上級副学長などを経て、2017年より現職。2019年より東京大学未来ビジョン研究センター特任教授。中央環境審議会会長代理および自然環境部会長、国際学術誌Sustainability Science編集長などを兼務。



永岡 里菜

株式会社おてつたび 代表取締役CEO

地域の短期的・季節的な人手不足で困る収穫時の農家などと、農業や地域に興味がある地域外の若者をマッチングする webプラットフォーム「おてつたび（お手伝い×旅）」を運営。お手伝いを通じて自分にとって好きで壊れない特別な地域が出来る、そんな“新しい旅”の形を提案している。



橋本 禅

東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授

専門はランドスケープ・プランニング、生態系サービス評価とシナリオ分析。東京大学大学院農学生命科学研究科で博士号取得。マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学大学院農学研究科、大学院地球環境学堂（講師、准教授）を経て2015年より現職。IPBESアジア・オセアニア地域アセスメントおよび地球規模アセスメントの代表執筆者を務めたほか、2018年よりIPBES学際的専門家パネル（MEP）メンバー、2022年よりMEP共同議長を務める。

(五十音順)

(参考)

IPBES: 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム (Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)

IPBES は、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織です。2022年12月現在、IPBES には 139カ国が参加しており、事務局はドイツのボンに置かれています。科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の4つの機能を柱とし、気候変動分野で同様の活動を進める IPCC の例から、生物多様性版のIPCCと呼ばれることもあります。



IPBES webサイト
<https://www.ipbes.net/>



環境省webサイト
<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/ipbes/index.html>

連絡先

環境省 自然環境局自然環境計画課 生物多様性戦略推進室

代表 03-3581-3351 直通 03-5521-8275

室長 山本 麻衣

室長補佐 浜 一朗

専門官 竹原 真理